

7-5					
主題	デイサービスセンター 稼働率向上に向けて				
副題	稼働率 10% 上昇した理由とは				
キーワード 1	稼働率向上	キーワード 2	10% 上昇	研究(実践)期間	15ヶ月

法人名・事業所名	社福) 泉陽会 光陽苑デイサービスセンター				
発表者(職種)	神山慎一郎(相談員)				
共同研究(実践)者	高橋俊之(相談員)				

電話	03-3923-5264	FAX	03-3923-5166		
----	--------------	-----	--------------	--	--

事業所紹介	練馬区西大泉にて 1991 年 4 月に事業を開始した特別養護老人ホーム光陽苑に併設され、同年 5 月デイサービスセンター事業、6 月認知症高齢者デイホーム事業を開始。地域に根差す法人・施設を目指し、近隣小中学校との交流やボランティアの受け入れなどを行い、今年で 34 年目を迎えるデイサービスセンターである。				
-------	---	--	--	--	--

《1. 研究(実践)前の状況と課題》

近隣における通所介護事業所の増加(当センターが位置する大泉地区だけでも、通所介護 20 事業所、地域密着型通所介護 19 事業所、認知症対応型通所介護 4 事業所)や、コロナ禍の影響も重なり、稼働率に伸び悩んでいた。

2022 年度の稼働率は、通所介護 75.2% (1 日定員 35 名)、認知症対応型通所介護 56.9% (1 日定員 10 名)であった。法人が掲げる稼働率の目標値(通所介護 86%、認知対応通所介護 70%)には届かず、経営的にも厳しい状況が続いていた。

練馬区内では、特に認知症対応型通所介護事業を閉鎖せざるを得ない事業所もあり、当センターでも稼働率を向上・安定させることが課題であった。

《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

当センター 2 つの通所介護事業の稼働率を向上・安定させること、職員のモチベーションを維持して利用者へのサービス向上につなげることを本研究の目的とした。

PDCA サイクルに則り、2023 年度上半期を問題点の抽出と改善計画の策定・実行、下半期を評価・改善の期間とし、以下を行うこととした。

- ・居宅介護支援事業所やケアマネジャーへの定期的な訪問や連絡方法のあり方を見直すこと
- ・見学希望者や家族も興味の持てるわかりやすいパンフレットなどツールを見直すこと
- ・定員に対する 1 日の登録者数の上限を検討する
- ・歩行分析 AI を導入し、利用者と家族に身体状況が見える化し、他デイとの差別化を図る
- ・老朽化した浴槽、浴室の改修工事を検討する

ここから、より良い信頼関係を再構築して稼働率 10% 向上に繋がることを目標とした。

《3. 具体的な取り組みの内容》

2023年4月～5月頃 問題点の抽出、改善計画の策定

- ・居宅介護支援事業所への定期訪問の時期、PRツールの見直し（パンフレット・空き情報）
- ・定員に対する欠席者数と理由を把握し、登録者数の上限を精査する。
- ・浴槽と浴室の改修工事が可能な助成金の活用を検討し、申請を行った。

2023年6月～ 改善計画の実行

- ・これまでの定期訪問は、実績を持参して月初1～2日に行うもケアマネジャーも繁忙期にて双方時間が取れず。毎月10日頃に訪問することで余裕あるコミュニケーションがとれた。
- ・パンフレットの更新、及び追加ツールの作成（1日の流れ、食事など）、空き情報の見直し（空き人数のみの表記から、裏面に前月の活動報告を盛り込む）を行い、ケアマネジャーも興味を持ち新規希望者の紹介に繋がっている。
- ・当日欠席や定期的なショートステイ利用、入院などを把握することで、各曜日での登録者数上限がわかり、新規受け入れや臨時利用の希望も調整が行えた。

2023年9月頃～ 実行、評価、改善

稼働率は向上しつつあるが、利用者のサービスの質向上のために下記の評価と改善を行った。

- ・浴槽と浴室改修工事に係る助成金支給の決定（2024年2月下旬改修工事済み）
- ・歩行分析AIを導入。毎月1回歩行分析を実施、定期的に利用者とケアマネジャーに配布。

《4. 取り組みの結果》

2023年度の稼働率は、通所介護78.7%（前年比プラス3.5%）、認知症対応型通所介護72.9%（前年比プラス16%）、契約数は64件となった。なお、通所介護においては80%を超える月が7ヶ月、感染症により事業縮小をせざるを得ない1月（62%）が稼働率に影響した。また、研究（実践）期間中である2024年4～5月においては、通所介護86.4%、認知症対応型通所介護78.7%と法人が掲げる稼働率の目標値をクリアした。

《5. 考察、まとめ》

特別養護老人ホームに併設された通所介護事業所ではあるが、事業として安定した経営を続けることは必要不可欠である。利用者が可能な限り在宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう通所介護を勧めるケアマネジャーと日頃から密な連絡を取り合い、定期的に顔を合わせて良好な信頼関係を築くこと、利用者に対してはソフト面の他にハード面でもサービスを改善することが、安定した稼働率に繋がることが再認識できた。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究（実践）発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

- ・ハートページ 介護保険 介護サービス事業者ガイドブック 2023年練馬区版
（監修：練馬区介護サービス事業者連絡協議会、協力：練馬区高齢施策担当部高齢者支援課）

《8. 提案と発信》

本研究の成果は、相談員のみならず、介護士や看護師・理学療法士・運転手などチーム一丸となって稼働率向上に向けての理解・協力があってこそ成しえていると考える。日々利用者が多く利用されることでフローも活気づき、職員のモチベーションにも繋がっている。

今後もケアマネジャーとの良好な関係を保てるよう、報告・連絡を密にとっていく。